

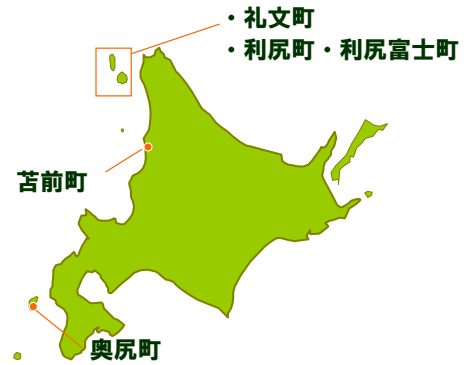


# にぎわい

## 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

### 編集者より

今回の「にぎわい通信」第136号では、漁業のまちである利尻富士町ならではの取り組みをご紹介しますとともに、ネットワークの主要課題の1つでもあります「漂着ゴミ問題」について、奥尻町、苫前町、利尻町、礼文町での取り組みをご紹介します。



### 会員だより

りしりふしちょう  
利尻富士町

- “浜づくり・人づくり” の取り組みについて -

利尻富士町からは、今年8月27日に<sup>おしどまり</sup>鴛泊港で地元小学生を対象に行った水産出前授業について紹介します。

利尻富士町は、リシリコンブやエゾバフンウニ等の水産品を特産とする漁業と観光の町です。

近年は、漁業者の減少や高齢化、漁業後継者不足が深刻な状況となっており、昔のように海で遊ぶ子供が少なくなっています。そこで、海の魅力や水産物の美味しさ・素晴らしさを子供達に伝えていこうと、地元漁業者が中心となって小学生を対象に水産出前授業を実施しました。

今回のテーマは『ヒラメ』。当地区では通称「利尻ヒラメ」と呼ばれており、ブランド化を図ろうと取組んでいる魚種です。<sup>おしどまり</sup>鴛泊小学校1・2・5年生40名が<sup>おしどまり</sup>鴛泊港に集合し、活魚水槽に蓄養する本物のヒラメを教科書として、ヒラメの生態や漁法・資源管理について学びました。

さらにその後、船揚場から自分の手で体長約8cmのヒラメ人工種苗の放流を行い、姿が見えなくなるまで見守りました。



ヒラメの放流の様子

“浜づくりは人づくりから”といます。このような取り組みを通して、次世代へ漁業や海の魅力を伝えていく事はとても大切な事であり、今後も継続して海の魅力を伝える取り組みを行いたいと考えています。



ヒラメの放流の様子

**“漂着ゴミ問題” について ～各地で海岸清掃を実施～**

おくしりちょう  
**奥尻町**

奥尻町では、雪解けとともに道路沿いで目立つようになったゴミや海岸に漂着したゴミなどの回収を図るため、「奥尻町クリーンアップ作戦」と「海浜清掃」を4月18日に全町一斉に展開しました。

この取り組みは、各町内会員をはじめ建設協会員、事業所員、町職員、自衛隊員、団体、小中学生などがこぞって参加し、ボランティアで毎年実施しているものです。

今年も約800人が参加し、それぞれ割り当てられた区間の道路沿いや観光名所地、海岸などローラー作戦でゴミを回収すると、その量は約11.4トン、トラックで28台分にも上り、これから本格化する観光シーズンを前に奥尻島のきれいな環境を取り戻すことができました。

また、奥尻町立奥尻中学校では毎年、さいの河原海岸で総合的な学習の時間を利用して、全校生徒、教職員が清掃活動を実施していますが、「～ふるさとと生きる～」清掃活動を通して地域の人々の思いやふるさとの問題に興味・関心をもつことを目的に、ゴミ回収を進め、2トントラック2台分のゴミを集めることができました。

こうした中学校教育の一環でも環境問題に取り組む活動が年々増えており、町全体でゴミ・環境問題への関心度が高まっています。



海岸清掃の様子

このような町あげでの町民ボランティアによる地道な取り組みの積み重ねが、町民のゴミ・環境問題に対する意識の高揚が図られるとともに、ゴミのない島づくりへとつながり、観光地に恥じないきれいな奥尻島を保っているのです。

## 利尻町

利尻島の漁が活気づく4月下旬、利尻町各地区の漁業協同組合が主体となって、町内の漁業者や役場関係者、組合職員など約300人が集まり、海岸の一斉清掃を実施しました。今年は昨年よりも更に多く、2トントラック10台分のゴミが集まりました。

集まったゴミを見ると、日本の製品だけでなく、韓国、中国、ロシア製の日用品など様々なものが流れ着いていて、漂着ゴミの問題は、国内だけの問題ではないことがわかります。

今後も、このきれいな海岸を守っていくため、海岸清掃を行っていきます。



海岸清掃の様子

## 礼文町

本年度も、礼文島内一斉の“クリーン作戦”を実施し、小・中学生とともに、海岸などを清掃しました。

この清掃活動は、単にゴミを拾うだけではなく、参加した生徒ひとりひとりが「自分と人の心を大切にする奉仕の心を考えながら、自ら行動できる」、「ゴミの分類調査をとおして、環境やモラルについて考える機会とする」ことをねらいとし、学習の場として行っています。

本年度は当初4月下旬の実施を予定していましたが、生憎の悪天候で日程を変更し、5月初旬に町内2校の中学校を中心に、全小・中学校で地域の清掃を行いました。

船泊<sup>ふなどまり</sup>中学校を中心としたグループは船泊<sup>ふな</sup>小学校、神崎小学校とともに、地元ボランティアの協力も得ながら、スコトン岬からゴロタ岬にかけての海岸と、スコトン岬に至る車道を中心に清掃活動を行いました。



小・中学生による海岸清掃の様子

収集されたゴミは、ペットボトル、家庭ゴミ、漁具など5種類に分類し、また、ゴミの数量やラベル表示から、どこから来たゴミなのかを記録しました。今後もこの清掃活動を引き続き継続していく予定です。

とま まえ ちょう  
苫 前 町

北海道の北西部に位置し日本海に面する苫前町は南北へ縦貫する国道232号沿いに約17キロメートルの海岸を有しており、毎年5月下旬に海岸清掃活動をしています。

この取組みは、日本海側の海岸線のイメージアップを図ることを目的に平成6年から始まっており、苫前町が事業主体となって各町内会、老人クラブ、婦人会、学校関係、高齢者事業団、地元建設協会等19団体がボランティアで協力しながら行っているものです。



地元ボランティアによる海岸清掃の様子

本年は5月27日に実施し、各関係団体から総勢120名が参加しました。また、海岸線を6地区に分け、担当した海岸にて清掃を行いました。集められたゴミの総量は約1.2トンとなり、一般廃棄物処理場へ運搬して処分を行いました。

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 事務局

国土交通省 北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課 調査係

Tel : 011-709-2311 (内線5617) Fax : 011-709-2147